

第1章 教育

子供向け教育サイトの事例

「子供が触れるインターネット」を考えた小学生向けサービス—Yahoo! きっず

子供向けに安全なインターネットの環境を提供する「Yahoo! きっず」

インターネットの普及に伴い、子供達の利用も増えつつある。この状況を背景に、ヤフー株式会社が子供向けサービス「Yahoo!きっず」を立ち上げたのは1997年11月。同社の株式店頭公開を機に社会貢献事業の一環として開始、小中学生が安心してインターネットを利用できる環境の提供が目的だ。

「Yahoo! JAPAN」ではサーファードと呼ばれるスタッフがページ内容を閲覧し、登録サイトを厳選している。機械的でなく人的に処理するこのノウハウを活かして子供に安全な検索データベースを構築、インターネットの入り口として信頼されるサービスを維持している。検索サービスをメインに始まった「Yahoo!きっず」も今では子供向けニュースの配信など情報提供サービスへと範囲を広げ、今後も米国で同様のサービスを提供する「Yahooligans!」との連携を活かし、さらなる発展を目指していく。

危険を正しく認識する必要性

「Yahoo!きっず」の立ち上げにあたり配慮したのは、その安全な検索データベースの構築だけではない。子供のインター

ネット利用に伴う危険性を正しく認識し、安全な利用法を身につけることの大切さを訴求し続けている。

前述「Yahooligans!」の協力を得て「Yahoo!きっず」に掲載されているガイドラインから、子供のインターネット利用について考えられる危険を挙げてみた。

■好ましくない情報を目にする

性的、暴力的な情報や画像など

■実際に嫌な目に遭う

個人情報や明かしてしまう、知らない人と会う約束をして自分や家族を危険にさらすなど

■嫌がらせを受ける

メールや掲示板、チャットなどで不快なメッセージや発言を受けるなど

このように、子供達のインターネット利用にはいくつかの危険が伴う可能性は確かに否めないが、だからといって利用させないというのは「交通事故に遭う可能性があるから道を歩くな」というのに等しいことではないだろう。

では、これらの危険を避けるにはどうしたらよいか。やはり一番確実なのは教師や保護者が自ら子供達を監督することだ。現実の世界と同様、子供達は我々大人のアドバイスやスキルを必要としている。表1に子供が安心してインターネット

を利用するためのチェック項目を挙げる。

インターネットは今後もさらに発展を続け、コマースやコミュニティを含め我々の生活の大部分を占めるまでになるだろう。今日の子供達がインターネットの利用に慣れることは、将来を考えれば必要不可欠なことである。前述のようなことに留意し、積極的にインターネットに触れる機会を設ける必要がある。

多様なコンテンツやサービス

「Yahoo!きっず」では検索キーワードのトップ5を毎週発表、子供達が何を探しているかが覗える。エンターテインメント関連のキーワードや、「方言」など授業に関連すると推測されるものが多い。もちろんこれらのキーワードをもとにした検索に応えるべく、日々データベースを更新している。

また、毎月テーマを変えて厳選サイトを紹介するページを提供しているが、ここで意識しているのは、子供達のインターネット利用をオンラインに留めるのではなく、教室や家庭での活動に繋ぐ「やってみよう」コーナー。たとえばバレンタインにはお菓子作り、「社会」がテーマの号では白地図のサイトを利用して自分なりの資料地図を作成するなど、インターネットと日常生活を結びつけを提供している。

インターネット上にはほかにもさまざまな子供向けサービスがある。動物の鳴き声や生物が卵から孵化する様など、音声や動画が検索できるサイトもあれば、メールを利用して子供達の質問に答えてくれるサービスもある。それぞれの特徴を正しく理解し、適切にそして楽しく教育現場や家庭で利用されたい。

(山岡紫 ヤフー株式会社)

<http://kids.yahoo.co.jp>
<http://www.yahooligans.com>

表1 子供が安心してインターネットを利用するためのチェック項目

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータは大人の目が届くところで触らせる。家庭では家族が集まる部屋に。 ・インターネットの利用に関するルールを、学校やクラス、家庭で設ける。 ・保護者の許可なく個人情報を明かさなことを、子供達に徹底させる。 ・個人情報の入力が必要なサイトでは、プライバシーやセキュリティについて事前に確認する。 ・オンラインで知り合った人と実際に会う場合は、必ず保護者が付き添う。 ・メールや掲示板、チャット等で子供が不快なメッセージを受けても、返事をしないように指導する。必ず保護者や教師に報告させる。 ・インターネットの不適切な利用を発見したら、プロバイダーに報告する。 ・子供と共にインターネットに触れるよう、教師や保護者から積極的に誘いかける。 ・子供を有害なサイトや情報から守るツールを利用する際は、それぞれの特徴と使い方を把握する。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp